

所在地：目黒区緑が丘 2 - 13 - 1 東急東横線・東急大井町線 自由が丘駅 徒歩 10 分

学校名： 緑ヶ丘小学校		作成年月日：H.9.12.04	調査日：H.16.7/16.7/23
施設タイプ		地上シート型	
環境概況	植 物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年繁茂が著しかったクサヨシやコガマは抑制され、水際が広がり開放感が増した。</li> <li>・水中のトチカガミ、アサザ及びヒルムシロは順調に生育し、特にトチカガミの繁茂が著しく、昨年同様に抑制する必要がある。</li> <li>・水際には、継続してエゾノサヤヌカグサ、コガマ、セリ、ミゾソバ、クサヨシなどの草本類が生育している。水中のオオカナダモ、スイレンは一部抑制されている。</li> </ul>	
	動 物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メダカ、ヤゴ及び脱け殻が確認できた。</li> <li>・ショウジョウトンボ、シオカラトンボが飛来していた。</li> </ul>	
	水 質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・透明度があり、良好である。</li> <li>・給水は、ビオトープ委員会で実施している。</li> </ul>	
	周辺環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・池中央部に橋が設置され池中央部が観察しやすくなったこと、及び観察ルートが明確になったため、南側の水際の踏圧が減少し、草本の生育が促進された。</li> <li>・周囲の樹林部分も観察空間として利用されてきたことから、枝落としや繁殖力の強い樹木の抑制など、多様な環境維持のための作業が必要になっている。</li> </ul>	
	土 壤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移植作業などの活動のため、池周りの土が池内に落ちることがあるが、土の補給及び泥上げで対応している。</li> <li>・水深は浅くなっている部分もあるが、深いところでは 40cm 程度確保されており、年に 1 回は泥上げ作業が必要である。</li> </ul>	
活動状況	管理体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教師の指導により、主にビオトープ委員会でやっている。</li> </ul>	
	管理状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会によって月一回の管理作業が行われているため、環境への大きな影響を与えない作業によって管理が行われている。</li> </ul>	
	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察ルートのきまりなどを掲示板に表示して、利用方法を知らせている。</li> <li>・委員会により定期的な観察が行われ、発見した動物のスケッチなどにより「ビオトープだより」の掲示を継続している。</li> <li>・生活科、理科、総合学習など各学年で活用されており、児童の興味は高く自由に観察している。</li> </ul>	
今後の予定・計画		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとに、年間カリキュラムにビオトープでの活動を位置づけ、計画的な活用を継続している。</li> </ul>	

作成後の主な活動経過

年月日	活動内容	活動形態
H 9.12.04	池の作成	ビオトープ勉強会参加の有志
10.05.07	春の植物調査	専門家
05.29	春の昆虫調査	専門家
06.05	水草の植え付け	有志
08.13	夏の植物調査	専門家
09.	秋の昆虫調査	専門家
10.28	秋の植物調査	専門家
11.03.26	掲示板の設置	専門家
04.	草取り、泥上げ	ビオトープ委員会
10.08 09	昆虫調査・採集	専門家・ビオトープ委員会
12.02.01	昆虫標本づくり	専門家・ビオトープ委員会
06.	草取り、泥上げ	ビオトープ委員会
13.06.05	草取り、泥上げ	ビオトープ委員会
14.	委員会活動を主体にして、継続的に観察・管理を行っている（草取り、泥上げ）	ビオトープ委員会 各学年の授業で活用
15.	継続して委員会活動を行う 各学年のカリキュラムに基づく活用	ビオトープ委員会 各学年の授業で活用
04.	全校での月刊ビオトープ観察の実施 総合的な学習の時間で課題さがし 生活科で虫をさがして春を見つける観察	全校 - 年間 3年 2年
05.	総合的な学習の時間で観察 ビオトープ探検	3年 1年
06.	総合的な学習の時間で観察	3年
16.	継続して委員会活動を行う 各学年のカリキュラムに基づく活用をしている。	ビオトープ委員会 生活科、総合的な学習など、 各学年の授業で活用

草取り作業前（平成15年6月）



前年度作業の後、南側のススキを西側に移植し、水中の浮葉植物として向原小学校より、トチカガミ、アサザ、ヒルムシロを移植し、生育が確認された。



夏の草取り作業前（平成16年6月）



観察のための木製の橋が設置され、池中央部の植物や生き物を観察できるようになった。植物の生育状況では、これまで池を覆うように繁茂していたコガマの生育が抑えられ、昨年移植されたトチカガミやヒルムシロの繁茂が目立ち始めている。

浮葉植物の繁茂(平成16年6月)



水面にはトチカガミとヒルムシロが繁茂し、アサザはおされぎみ。水質は良好でメダカも多く見られた。

観察ルートの設置(平成16年6月)



橋の設置により、観察ルートが明確になり、水際の踏圧が減少し、草本の生育が促進された。

観察路の設定(平成16年6月)



後背部の樹林や草地部分も観察しやすいように観察路が設定され、池部分を核とした区域全体での利用ができるようになった。

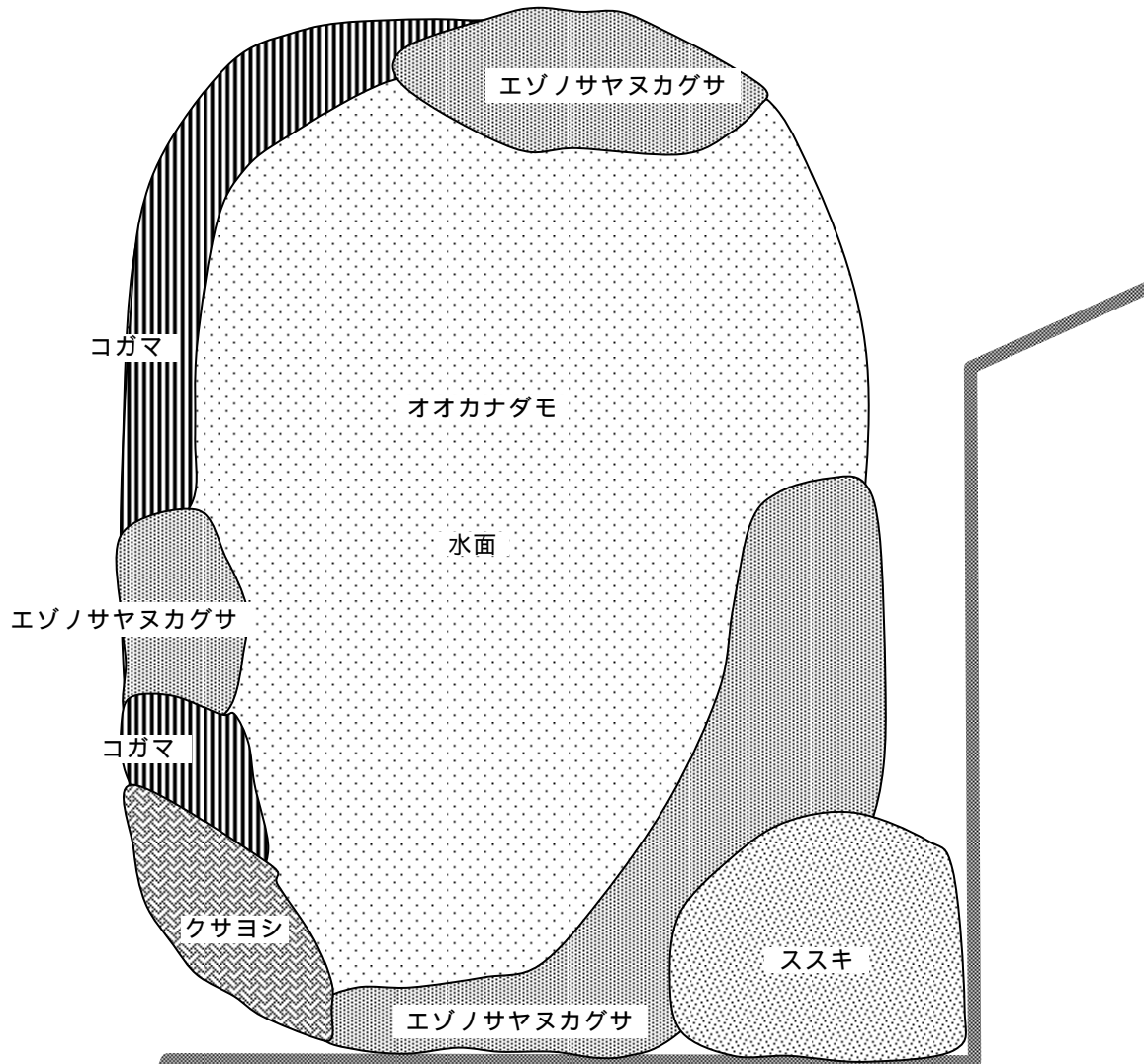
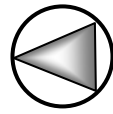
活動情報(平成16年6月)



活動掲示板には、観察のルール、観察記録などが記載され、利用に対する情報提供が行われている。

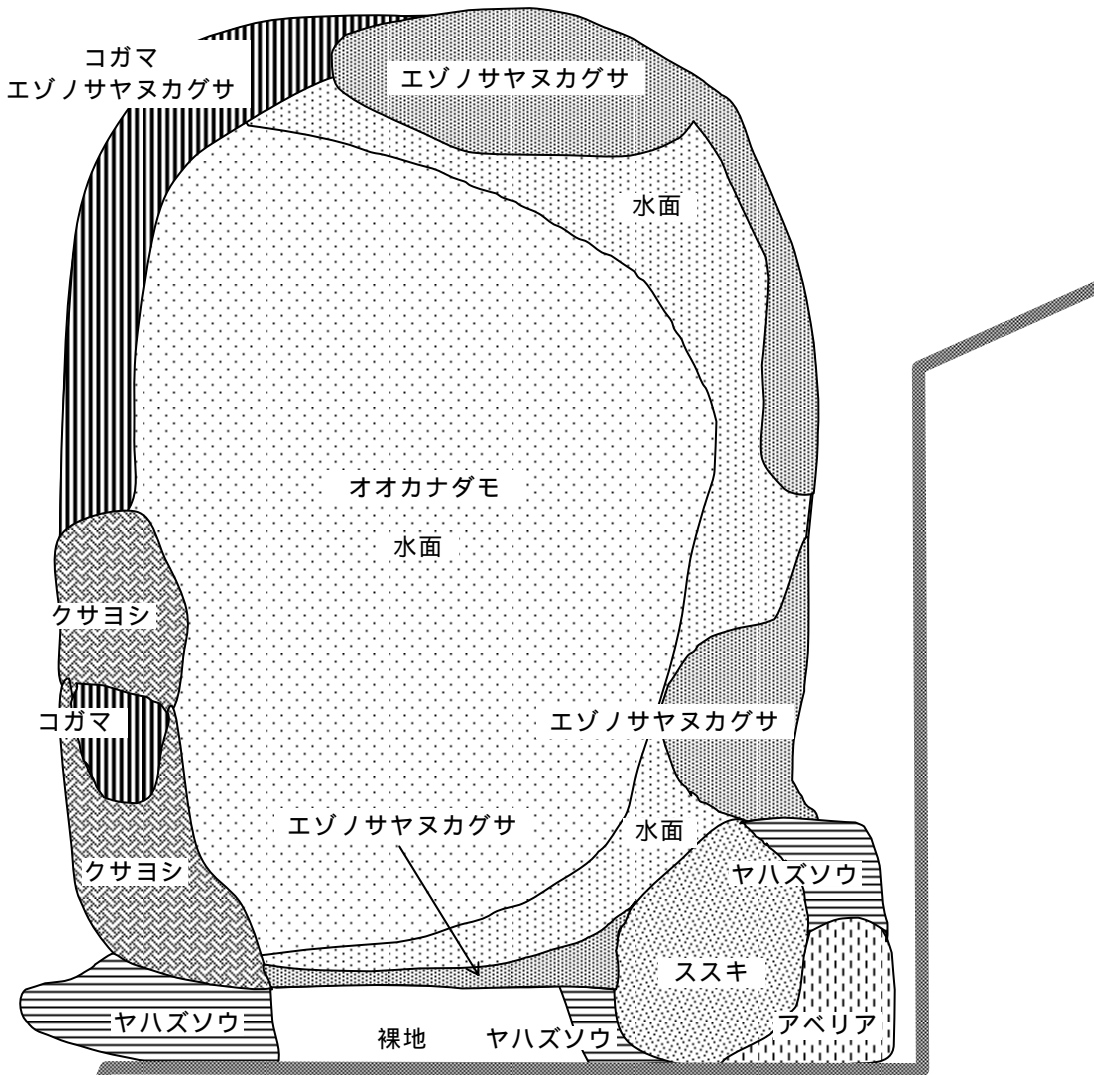
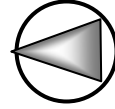
緑ヶ丘小学校  
<平成13年度>

山



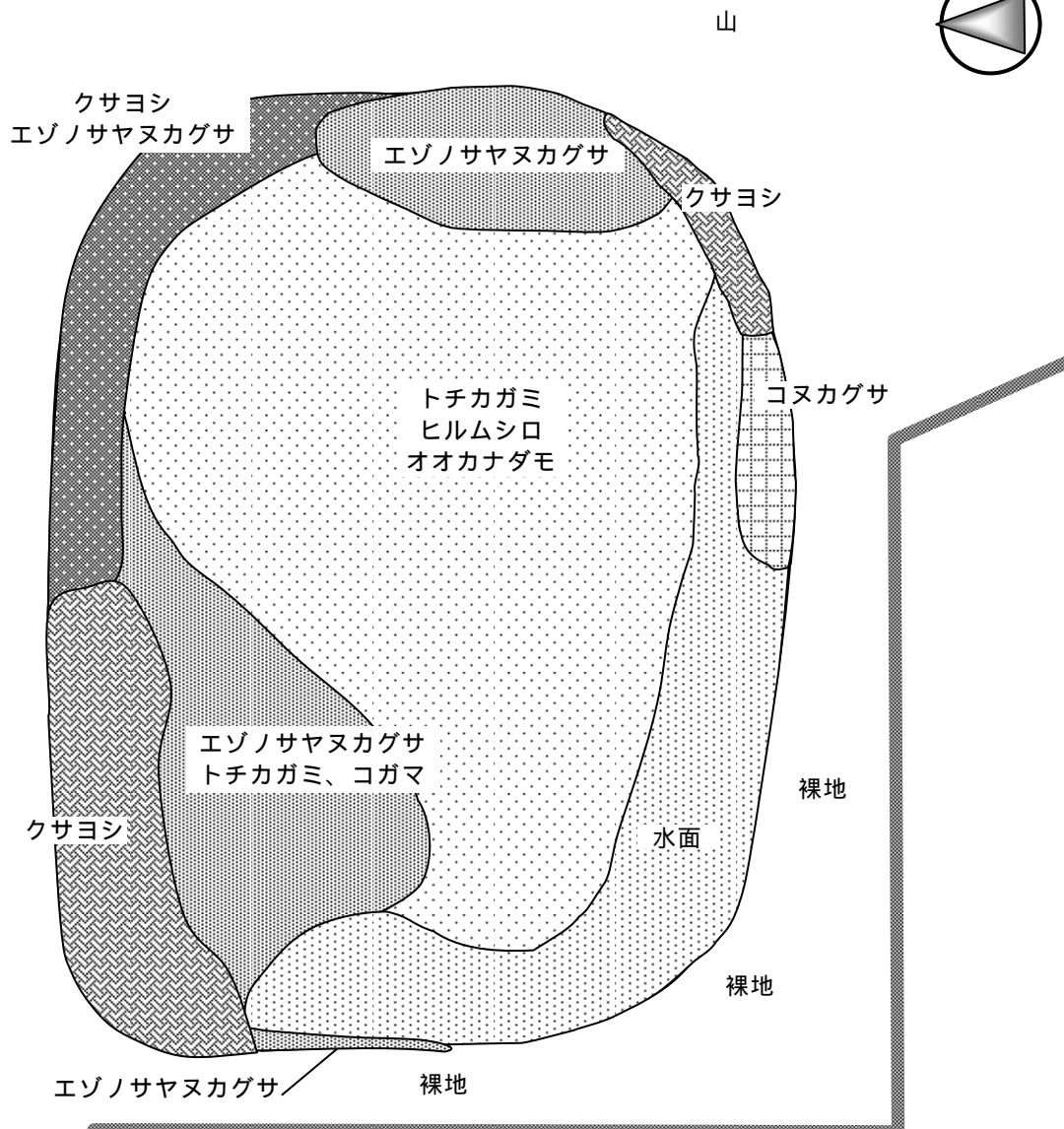
水際には、ミゾソバ、セリ、コガマ、エゾノサヤヌカグサなどが生育している。水面の一部にはホテイアオイやウキクサが見られ、水中にはコカナダモが広く繁茂している。

ホテイアオイやコカナダモは帰化種で繁茂し易く、水面を覆ってしまうため、ホテイアオイについては全て、オオカナダモについては一部を除いて除去する必要がある。



水際には、クサヨシ、コガマ、エゾノサヤヌカグサなどが繁茂しているが、ミゾソバやセリなど比較的低茎の草本は目立たなくなっており、やや単調な植物相になっている。

水中にはオオカナダモが広く繁茂しているが、メダカなどは観察しやすい状態になっている。また、藻類が繁茂も目立つため定期的な除去を行う必要がある。

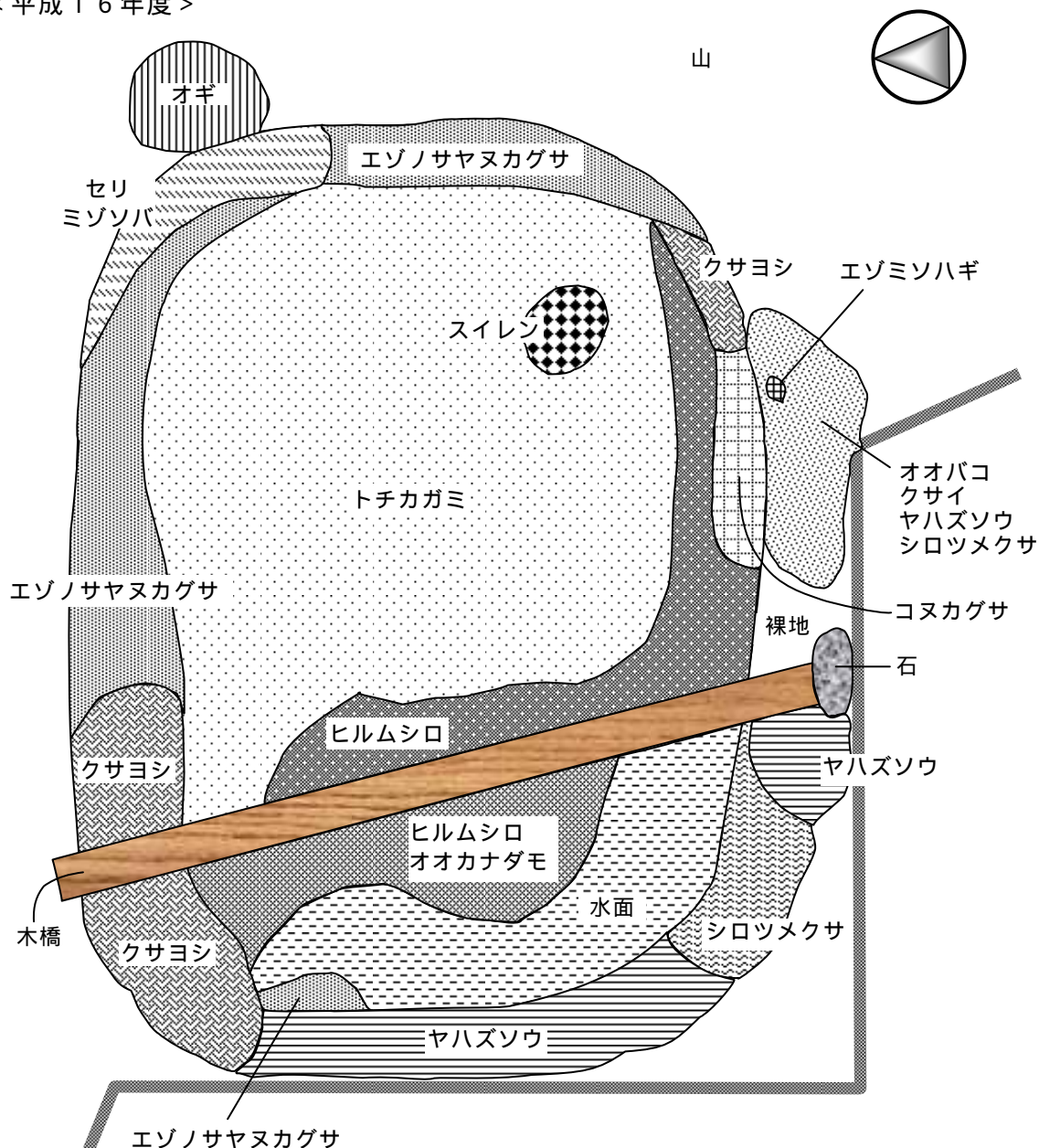


水際には、クサヨシ、コガマ、エゾノサヤヌカグサなどが繁茂していたが、除草作業により、池の南側には裸地が広がっている。そのため、次回の泥上げ作業時に水際に田んぼ土を補充することとした。

池の北側は植物が繁茂する保全エリアに、南側は児童が池の動植物を観察するエリアになっており、メダカなど水中を観察しやすい状態になっている。

ミゾソバやセリなど比較的低茎の草本は目立たなくなっている。一方、水中では、昨年まで水中にオオカナダモが広く繁茂していた。今年は、これにかわってトチカガミやアサザの繁茂が目立ち、半分程度に適宜除去を行い、常時水面確保する必要がある。

<平成16年度>



池中央部に橋が設置されビオトープは観察しやすい状態となっている。植物の生育は、トチカガミが過度に繁茂しているため、水中の生物を観察しにくくしているため、随時、現在の1/3程度にまで抑制する必要がある。池まわりでは、草本の繁茂が広がり、今まであまり見られなかったヤハズソウ、シロツメクサ、オギなどが目立つようになっている。

今後は、後背部の樹林地や草地部分に観察・記録の範囲を広げて、水辺とともに乾燥地や緑陰地など、多様な環境に適合した植物を学習する場として活用することができるため、樹林部分、草地部分等の育成目標を設定した観察・管理作業が必要になる。

なお、後背部分では整備半年後の全域調査を活かすために、整備五年後の再調査による環境変化の確認が必要と考えられる。